

令和6年度 第3回「はばたきプラン21」推進会議 会議録

日 時：令和7年1月23日（木）午前10時～12時

場 所：台東区男女平等推進プラザ403・404企画室

出席者：手打委員（会長）、池谷委員（副会長）、針谷委員、富永委員、榎本委員、木寺委員、会場委員、永田委員、木村委員、高野委員、牧田委員、井上委員

欠席者：三枝委員、松谷委員、根岸委員、宇田川委員

事務局：梶総務部長、河野人権・多様性推進課長、山野井男女平等推進担当係長、鈴木男女平等推進プラザ長、松村男女平等推進担当係長、小野寺男女平等推進プラザ主事、小池男女平等推進プラザ主事

1 開会

2 会長あいさつ

3 議 事

（1）議事要旨の確定について

○第2回会議の議事録の内容の確定について、事務局より確認が行われた。

（2）令和5年度事業進捗状況に対する委員からの質問について【資料1】

○事務局より資料1に基づき説明があった。

○委員からの意見・質問は次の通り。

手打会長 何か質問等があればお願いしたいと思います。No.2の人権講座LGBTが廃止されたのはなぜかという質問に対する回答が不十分であるように思いますがいかがでしょうか。「性の多様性」をテーマとする動画教材にLGBT関連の内容も含まれているのであれば、そのように回答していただいた方がよいのではないのでしょうか。質問された委員の方はいかがでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 令和2年度からは、人権・多様性推進課が作成した、性の多様性をテーマとした動画教材を使用したeラーニングに変更したことと、既存の人権問題の研修においても、同様の教材を取り扱うことにしたために廃止したという意味で、講座名としてはなくなりましたが、中身としては継続しているという意味です。

手打会長 No.12、13の質問への回答について、エイズに限った普及啓発をしているわけではないという回答でよろしいでしょうか。

井上委員 質問としては、事業名が「エイズ」に限定しているように読めるので、性感染症という表現でもよいのではないかという質問だと思います。率直な回答にはなっていないと思います。

手打会長 事業タイトルを考え直した方がよいかもしれません。

事務局（人権・多様性推進課長） より広く感染症全般という意味で検討します。

池谷副会長 No.15 の質問について、福祉系の分野全体に、男女別データをできるだけ取ってほしいとお伝えいただきたいです。データをとっていないとそもそも議論ができませんので、区全体としてジェンダー統計を取っていただきたいです。

会場委員 No.18 について、相談が終了した経緯も回答していただきたいです。なぜ時代に逆行する形で廃止をしてしまったのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 所管課に問い合わせた上でしかるべき修正を行います。

（３）第５次台東区男女平等推進行動計画「はばたきプラン２１」令和５年度進捗状況に対する評価のまとめ【資料２】

○事務局より資料２に基づき説明があった。

○委員からの意見・質問は次の通り。

手打会長 事務局から示された評価案について、ご意見があればお願いします。

木村委員 P7 の男女平等推進プラザ認知度が３割に及ばないという点について、精神相談員相談件数が減ったこともそうですが、SNS の口コミや LINE の友達登録等で幅広く活動について知っていただきたいです。集計も延べ件数ではなくもっと広くしてもらいたいと思います。

手打会長 施策１から順番にお願いします。施策１の男女平等意識の形成については評価指標を達成しているので、そのあたりをもう少し強調してもよいのではないのでしょうか。また、達成できた要因としては、学校や家庭での教育に効果があったのでしょうか。

井上委員 「男性は仕事、女性は家庭」という指標自体が、数字が上がりやすい項目をとっており、男女平等意識の形成の施策を評価する指標として妥当なのかが疑問です。

事務局（人権・多様性推進課長） 国や東京都の調査でも取り入れている指標であり、国や都と比較すると台東区ではそれよりも高くなっていることから、評価指標としては妥当であると認識しています。

手打会長 性別役割分担意識が変化してきている社会的な風潮が反映されていると考えられます。

高野委員 世代別に評価指標を出すことは可能なのでしょうか。世代別に出すことで、評価が低いところに注力することができるのではないのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 調査結果としては年代別の数値も出している。ここでは高齢者の数値が低くなっています。

高野委員 台東区の人口比率で、世代が多い方が発言権は多くなるので、その人たちに向けて注力して施策をたてればより効率的に改善するのではないのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 全般的に高いものの、女性は40代と70代以上がやや低くなっています。男女とも高齢の方がやや低い傾向があります。

針谷委員 評価の中に、「学校や家庭のみならず、社会で暮らす人々みんなで連携して・・・」という文言がありますが、これは進捗状況に対する評価の総評としてそぐわないのではないのでしょうか。誰に向けて言っているのか。意識を向上していくために今後も継続的にやることが必要であり、区民の皆様に伝えるという主張は違うと思います。世代間で差はあるものの、相対的には評価が上がっていることを明記した上で、課題を挙げたらよいのではないのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 修正します。

手打会長 施策2についてご意見があれば伺いたいです。

富永委員 施策2の評価時点が令和6年度となっているのはなぜでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 審議会等における女性委員の割合については、区の内部調査の結果であり、経年で追える数値のため令和6年度の数値を使用しています。

富永委員 資料名が「令和5年度進捗状況」となっているので説明が必要ではないのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 注釈を入れるなど対応します。

手打会長 施策3について、10ポイントくらい下がっているがその要因が明記されていません。委員の皆様の実感としてなぜ下がってしまったのかご指摘いただきたいです。女性の視点を取り入れた防災対策が行われていないと感じる方が増えているようです。

会場委員 「女性の視点を取り入れた」の具体性が伝わっていないのではないのでしょうか。例えばどのような取組があるのかもわからない方が多いと思います。

事務局（総務部長） 議会でも問題になっている。危機・災害対策課では、衛生用品や授乳の際に必要な物等、備蓄等の準備は着実に進めているものの、その周知が追いついていない状況があります。防災訓練等でのPRが必要だと考えています。

牧田委員 防災は男女ではなく全ての人が考えるべきことです。単身者向けの防災とはどのような意味でしょうか。

事務局（男女平等推進プラザ長） 単身者向けは、隣近所の付き合いが希薄で、マンションで一人住まいだと防災に関する情報も伝わりにくいため、そうした視点も踏まえて対策を進めていく必要があるという意味です。

手打会長 単身者、女性の視点も踏まえて今後の改善点を考えていく必要があるということです。

木村委員 保育園の保護者会等で出前講座を実施して、子どもだけでなく親子が一緒に参加してもよいと思います。出前講座が身近な場所で開催されるようになれば女性の意識も変わり、意見も出ると思います。

木寺委員 能登半島地震でも、段ボールベッドの用意はあってもすぐに準備できなかったようなので、住民への理解・周知、情報共有を進めることで、いざという時に協働で動きやすいのではないのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 調査結果を見ると、「わからない」の回答が増えており、全体的に男女ともに5割以上が「わからない」と回答しているので、周知が足りないと認識しています。

手打会長 それでは次に、基本目標2の施策4についてご意見を伺いたと思います。職場での男女差別が「特にない」と思う人の割合が50%の目標に届いていないので、少し工夫が必要です。性別、年代別でも差があるように思います。

会場委員 取組の方向性としては、真っ先に企業等への支援が挙げられるべきだと思います。男性の長時間労働の状況は変わりつつありますが、より一層企業や社会の環境を変えていく必要があるのではないのでしょうか。本人の意識を変えたところで、周りがそれに対応してくれないのであれば意味がないです。区内企業に向けての講習の実施等、具体的な案があるとよいと思います。

手打会長 事業者等への取組に関連することをもっと記載するべきというご指摘です。

木寺委員 雇われている身では中々言えない部分があるので、会社に働きかけるのが一番効果的だと思います。企業の女性経営者に来てもらい講座を行う等、特に中小企業の意識改革が必要であり、事業者への取り組みが第一であります。

木村委員 難しいとは思いますが、実際に職に就いた方々の声を上手く聴取し、それらを経営者に反映できるとよいと思います。

会場委員 学生や若者はいわゆるブラック企業かホワイト企業かをネットで調べて判断しているので、国や区の調査レベルで、企業名を出して情報提供をしてもよいのではないのでしょうか。

木村委員 被害妄想的な部分もあるので、実際の現場の声は大事だと思います。

手打会長 個別の企業名まで出すかどうかは難しいところではあるが重要なご意見です。「施策5 ワーク・ライフ・バランスの実現」についてはいかがでしょうか。

榎本委員 意識調査の結果の数値が、本当なのかとってしまうくらい低く、生活することが困難で、精神的にも体力的にもかつかつで生活しているような数字だと思います。回答者の年代で、若者の数値が低いのであれば未来がないような結果で寂しいし、高齢者の場合でも先行く不安が色濃く出ていると思います。

手打会長 榎本委員の日常的な感覚では、こんなに低くないということでしょうか。

榎本委員 まだまだ捨てたものではないと思っています。確かに年金も低く物価も高いし、闇バイトやDVの問題もありますが、8%に対しての目標の30%も低いと思います。生きていく希望がないような数字です。100%とは言わないが、かなり低い数字だと思います。

事務局（人権・多様性推進課長） クロス集計の結果を見ると、「仕事、家庭、個人の調和がとれて

いるか」となると各年代低くなっています。男性は仕事優先の人が多いです。仕事と家庭を優先して個人の充実した生活をおくっていない人が2割強で、女性が多くなっています。

富永委員 極端に低いとは感じませんが、バランスで中身をどのように捉えるかは個人差があります。施策1の評価を見ると、台東区の人には性別役割分意識がなく9割が反対しているにも関わらず、他の指標やデータを見ると、性別役割分業が実践されており、職場やワーク・ライフ・バランスという意味では性別の意識があるという印象です。

手打会長 まだまだ個人の生活が豊かになっていないことと、今の日本の生活スタイルやワーク・ライフ・バランスが難しい状況が反映されています。この状況に対してどのように評価するのか、ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度や経営者の意識改革、働き方改革を見る必要があります。

会場委員 校長先生が女性なので、働き方改革を第一にし、率先して定時に帰っていますが、それを認めない保護者もいます。ワーク・ライフ・バランスが女性に向けた言葉であれば、女性は結婚して出産したらお母さんになるのではなく、女性は女性としてお母さんの役割が一つ増えるという認識を持ってもらいたいと個人的には思っています。

針谷委員 皆がかつかつの生活をしているので、時間があっても余裕がありません。子育て世代の方は本当に大変で、保育園に預けるにしても学校に行かせるにしても、昔と比べて精神的な負担が増えています。ゆっくりする時間がない中で時間をとるためには、企業の支援や、出産・育児・介護に関する職場の理解が必要です。現実的なバランスが取りにくい状態があってこの数字が出てきていると受け止めることが大事です。受け止めた上で次に何ができるかとなると、社会を変える視点になってきます。子ども達は、自分らしさやキャリア形成等、夢や希望を持って色々なことを語っているので、このウェルビーイングの生き方は大事にしていきたいと思います。大人が忘れてしまったことを子ども達が考えているので、学校での取組や啓発の場の工夫など、急激に変わることは難しいが、そういう視点もあると思います。

木村委員 何かあった時には任せていいし、自分の精神面が一番大事ですが、理想と自分の現実を比べるとこの数字になってしまうのかもしれない。良いバランスがとれるように企業には努力をしてもらいたいと思います。

手打会長 「施策6 子育て世代・介護者への支援」についてはいかがか。

会場委員 取組の方向性で多様な子育て支援サービス・保育サービスの充実とあるように、次年度からスタートする全保育園、全区立幼稚園の預かり保育に感謝しています。区立幼稚園は定員割れをしている状況にも関わらず、選んで入れている保護者がいるのは、サービスの充実につながっていると思います。

手打会長 数字が上がっていることは評価したいというご意見ですね。

木村委員 居場所づくりについては、高齢者も同様に、孤立・孤独が一番精神的な負担が大きいので、居場所づくりの取組は重要です。

手打会長 基本目標3の「施策7 配偶者等からの暴力および被害者保護」についてはいかがでしょうか。

会場委員 DVの被害者、加害者は絶対に一定数いるので、いかにして助けを求められるか、この評価ではわかりづらいように思います。

木村委員 子どもに対するデートDVに関する意識付けも重要です。子どもの頃からDVに関する問題意識を持てるように啓発していけば、少しずつ世の中も変わると思います。

池谷副会長 評価指標としては被害経験の割合が減っているにも関わらず、評価の文章では増加し続けるとなっていると、区民の方は読み取りにくいのではないのでしょうか。実際の相談が増加していることと、台東区の特徴として高齢者のDV被害の相談が多いこともあわせて書いた方がよいのではないのでしょうか。

手打会長 「施策8 あらゆる暴力の防止への取組」についてはいかがか。こちらの数値は増えているので減少させる必要がある。

会場委員 あらゆることがハラスメントに繋がる社会の状況で、ハラスメントという括りは範囲が広すぎて減らしていくのは現実的に難しい面があると思います。若年層とは小学生も含まれているのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 小学生も含めて想定しています。

会場委員 小学生の女の子でもハラスメント被害にあうケースもあるので、小学生がここまで知っているのかという状況を理解していただきたいと思います。

木村委員 ハラスメントへの社会的な意識が高まる中で、今までは我慢していた人も、これはハラスメントだったのか、という形で割合が増えている面もあると思います。割合を減少させていくことも重要だが、社会全体で良い方向に変えていくような視点も必要ではないのでしょうか。

高野委員 被害者への対応については書かれていますが、加害者への対策はあるのでしょうか。

会場委員 ないと思います。実際に、加害者の方を家庭教育保護支援センターに連絡しましたが、こちらは被害者なのに、加害者へのアフターケアやフォローは教えてもらえませんでした。

高野委員 地元で高齢男性に絡まれた経験があるので、そうした方のケアや対応はないのでしょうか。

事務局（男女平等推進プラザ長） DVであれば加害者更生プログラムに取り組んでいる自治体もありますが、加害者の参加は難しい状況なので検討が必要とされているものもあります。

手打会長 大きな事件であれば更生プログラムが適用されますが、大小様々あるのでコミュニケーションを図る必要があります。「施策9 生涯を通じた男女の健康支援」についてはいかがでしょうか。指標を見ると着実に進んでいるようすが。

高野委員 職場で年1回健診を受けていますが、それを辞退する仕組みがあれば、受けられない人に権利を譲ることができないのでしょうか。

会場委員 扶養なので、そういう仕組みがあればいいと思います。

手打会長 必要な人に届くように、きめ細かい対応があればよいと思います。

事務局（人権・多様性推進課長） ご意見いただいたことは所管課にお伝えさせていただきます。

井上委員 「エイズ」という文言は症状の名称なので、「HIV 感染症」と正式名称に修正した方がよいのではないのでしょうか。

手打会長 修正について検討いただきたいと思います。「施策 10 困難を抱える方への支援の充実」についてはいかがでしょうか。

針谷委員 人権を守られていない方が増えているということでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） そのような結果となっています。

針谷委員 人権課題の周知が行き届いているからこそ、そう思う方が増えていると思います。新たな人権課題は今後も出てくるので、それに対応した取組が必要だと思います。

手打会長 区民の意識の高まりでもあります。

針谷委員 一概に増えたことが悪いということではない、という見方もあります。

木村委員 数値だけでなく具体的な意見はあったのでしょうか。

事務局（人権・多様性推進課長） 東京都で言われている 17 の人権課題を並べ、こういった問題があると思うかを聞いています。

木村委員 それぞれ感じ方は幅広いので、具体例があるとより理解しやすいのではないのでしょうか。

手打会長 計画推進の基盤、ジェンダーの視点による区政運営についてはいかがでしょうか。プラン自体やプラザの認知度が低いのはなぜでしょうか。

事務局（男女平等推進プラザ長） プラザが創立して 20 年になりますが、未だに施設の存在を知らない方が多いです。男女平等参画というテーマのとっつきづらさや、そもそも生涯学習センターに来たことがないという方もいるので、色々な要素が合わさって認知度が低くなっています。講座やフォーラムへの参加がきっかけで知ってもらう方が多いので、今後も力を入れていきたいと思っています。

手打会長 関係者は知っているが広がりがないのでしょうか。

会場委員 生涯学習センターの改修をきっかけにして周知をしていただきたいです。

木村委員 講座のお知らせは広報だけでしょうか。区報はあまり見る人がいない気がします。今は

ネットの時代で生涯学習センターの催しの情報なども QR コードを読み込めばすぐにたくさん手に入りますし、配信されていきます。楽しく学べる機会があることをもっと周知できるとよいと思います。

榎本委員 この建物の4階でコミュニティカフェを実施していますが、コロナの影響で人が減ったため、1階で呼び込みをしてみると、こんな場所があったのかという反応が多かったです。ここにはたくさんの講座のチラシがあり、こんな講座があったとは知らなかった、という声を聞きます。広報のやり方を変えて4階まで上がってきてもらう工夫が必要だと感じました。

永田委員 5階には来ていますが、男女共同参画と聞くと少し怖さもあり4階には足を踏み入れたことがありませんでした。この会議に参加してから4階も利用させてもらうようになったので、改修をきっかけにPRができるとよいと思います。

会場委員 改修によって中断したことでわかることもあるのではないのでしょうか。

永田委員 PRしてもらうことにより利用者が増えるのではないのでしょうか。

榎本委員 コミュニティカフェを知らない方が多いので、もっとPRして利用者が増えれば、つながりも増えると思います。

井上委員 ジェンダーという言葉の使い方について、男女平等とジェンダー平等を認識した上で使い方を検討した方がよいのではないのでしょうか。

池谷副会長 総評について、来年度も評価を実施するのであれば、全て令和5年度に統一した方がよいのではないのでしょうか。特に重点的な取組が必要なテーマ、目標が逆行している部分、防災関連の部分も総評に記載して、もう少し踏み込んで危機感のある記述になるとよいと思います。

(4) 第6次台東区男女平等推進行動計画「はばたきプラン21」の策定について【資料3～5】
○事務局より資料3～5に基づき説明があった。

(5) その他
○次回会議は3月6日(木)14時～予定

4 閉 会

以上